

分担研究：HTLV-I 母子感染の長期追跡および 保健指導に関する研究 平成3年度総括研究報告

衛藤 隆

要約：(1) HTLV-I 抗体陽性妊婦から出生した児の追跡調査を四国、九州、沖縄にて実施した。母乳を与えられた期間と本ウイルスの感染の関係については結論が得られず引続き検討課題となった。(2) HTLV-I 抗体キャリア妊婦の保健指導マニュアル作成のための準備作業を行ったが、要となる母乳授乳に関するデータが不十分なので上記の追跡調査データをさらに蓄積した上で見解をまとめ、作成することとなった。

見出し語：HTLV-I、母子感染、ATL、保健指導

〔研究組織〕

分担研究者：

衛藤 隆（国立公衆衛生院母子保健学部）

研究協力者：

相良祐輔（高知医科大学産婦人科）

園田俊郎（鹿児島大学医学部ウイルス学）

武 弘道（鹿児島市立病院小児科）

田島和雄（愛知県がんセンター疫学部）

辻 芳郎（長崎大学医学部小児科）

中山道男（琉球大学医学部産婦人科）

班友：

木下研一郎（国立長崎中央病院内科）

母里啓子（国立公衆衛生院疫学部）

〔研究目標〕

(1) HTLV-I キャリアの母親から出生した小児の長期追跡による感染状況の把握。

(2) HTLV-I キャリア妊婦に対する保健指導のあり方についての検討。特に、保健指導マニュアルの作成に向けた準備作業を行

国立公衆衛生院母子保健学部

Department of Maternal and Child Health, The Institute of Public Health

う。

〔研究結果〕

(1) 妊婦のHTLV-I抗体検査を実施し、確認検査にても陽性（以下「キャリア」）の妊婦より出生した児の追跡調査が継続的に行われた。〔高知県：相良班員、鹿児島県および宮崎県西部：園田班員、鹿児島県：武班員、長崎県：辻班員、沖縄県：中山班員〕乳児の追跡調査の結果、感染が証明された児の場合、HTLV-I抗体が陽性となる時期は概ね1歳6ヵ月までであり〔相良班員〕、2歳0ヵ月を過ぎて陽性となる例は認められなかった。〔相良班員、辻班員〕

母乳を与えられた乳児における母乳を与えられた期間とHTLV-I感染との関係については、6ヵ月以内の場合は7ヵ月以上の場合に比較し感染率が低くなることを示唆する結果が得られた報告〔園田班員〕と、特に関連性を認めない報告〔辻班員、中山班員〕の双方があり、今後引き続き検討する必要がある。

児への感染に関する母体側の要因として、抗体価、p40^{tax}抗体、provirus copy数などが検討された。抗体価については、垂直感染をおこしたキャリアの母親にてEIA法によるカットオフインデックスは高値であったとする報告〔相良班員〕がある一方、新PA法による母親の抗体価と児のキャリア化には相関を認めなかったとの報告〔中山班員〕もあった。母親のp40^{tax}抗体も同様に児のキャリア

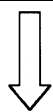
化とは相関しないが、provirus copy数の多寡は相関するとの結果が報告された。〔中山班員〕

(2) ATL母子感染防止モデル事業を実施した高知県において、妊婦に対する質問紙調査を実施したが、医師による詳しい説明をしたにもかかわらずATLについて理解できなかった妊婦が少数存在したことが報告された。また、採血・検査時期が遅れ、分娩前にキャリアの告知ができなかった経験が報告された。〔相良班員〕

HTLV-I抗体陽性妊婦の保健管理を担当する保健・医療従事者に対する保健指導マニュアルの作成のための準備作業を行ったが、内容の要となる母乳授乳に関する指導内容の基礎となるデータが未だ不足している段階なので、追跡調査研究を継続する中でこの点に関する見解をまとめマニュアルに盛り込んでいく方向で取り組むこととした。

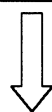
(3) その他、キャリア妊婦の家族調査の結果、夫から妻への感染は18%程度にみられ、母子感染に次いで多い感染経路であった。感染は結婚後1～4年におこっているようであった。〔武班員〕初回妊娠時にHTLV-I抗体陰性でも2回目の妊娠時に陽性となっている例の経験も報告され、水平感染による感染が疑われた。〔相良班員〕

田島班員は第5次ATL全国調査の結果を報告し、過去10年間に患者の平均年齢が高齢化する傾向にあることを示した。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約: (1)HTLV-I 抗体陽性妊婦から出生した児の追跡調査を四国、九州、沖縄にて実施した。母乳を与えられた期間と本ウイルスの感染の関係については結論が得られず引続き検討課題となった。(2)HTLV-I 抗体キャリア妊婦の保健指導マニュアル作成のための準備作業を行ったが、要となる母乳授乳に関するデータが不十分なので上記の追跡調査データをさらに蓄積した上で見解をまとめ、作成することとなった。